

インターネット取引に関する調査結果（2020年9月末）について

日証協・2020.12.29

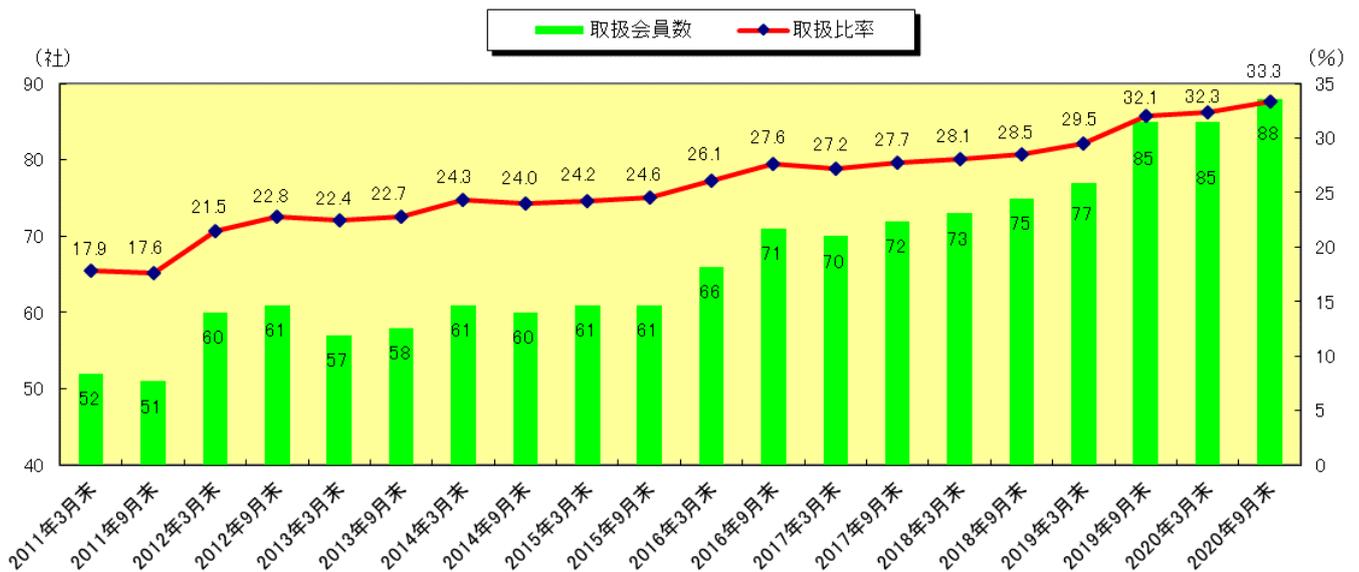
本協会では、2020年9月末におけるインターネット取引に関する調査を実施し、以下のとおり、インターネット取引を行っている会員の状況を取りまとめた。

1. 取扱会員数

調査対象会員264社のうち、インターネット取引を行っている会員数は、88社（33.3%）と、2020年3月末調査（以下「前回調査」という。）の85社と比べ3社の増加となった。（図-1参照）

また、インターネット取引について、「現在準備中」の会員は4社、「現在検討中」の会員は4社であった。

図-1 インターネット取引の取扱会員数及び取扱比率



（注）割合については、小数点第2位を四捨五入。

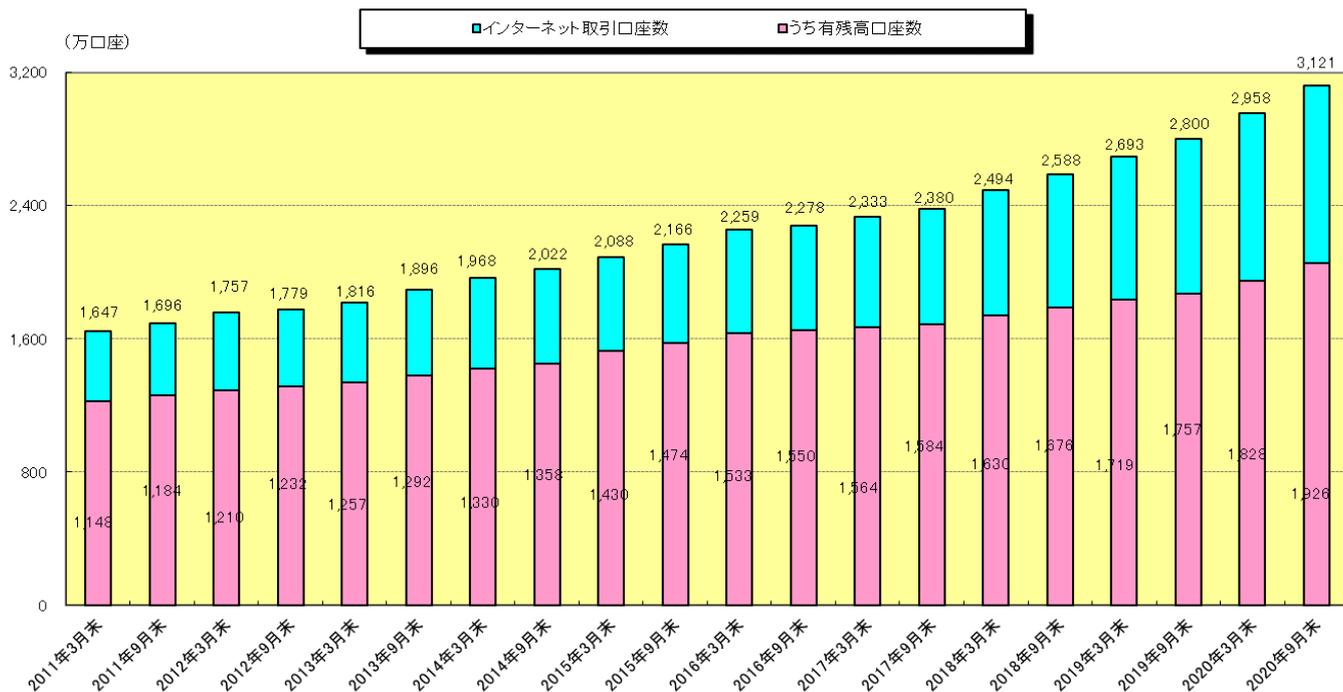
2. インターネット取引の口座数等

（1）口座数及び有残高口座数について

インターネット取引の口座数は、個人及び法人等あわせて3,121万口座と前回調査時の2,958万口座から、163万口座（5.5%）増加している。このうち、有残高口座数（残高が1円以上の口座のことをいう。以下同じ。）は1,926万口座と総口座数の61.7%（前回調査時61.8%）となっている。（図-2参照）

また、信用取引口座数も197万口座と、前回調査時の182万口座から、15万口座（8.2%）増加している。このうち、有残高信用取引口座数は、信用取引口座数の58.9%に当たる116万口座であった。

図-2 インターネット取引口座数



(注1) 割合については、小数点第2位を四捨五入。

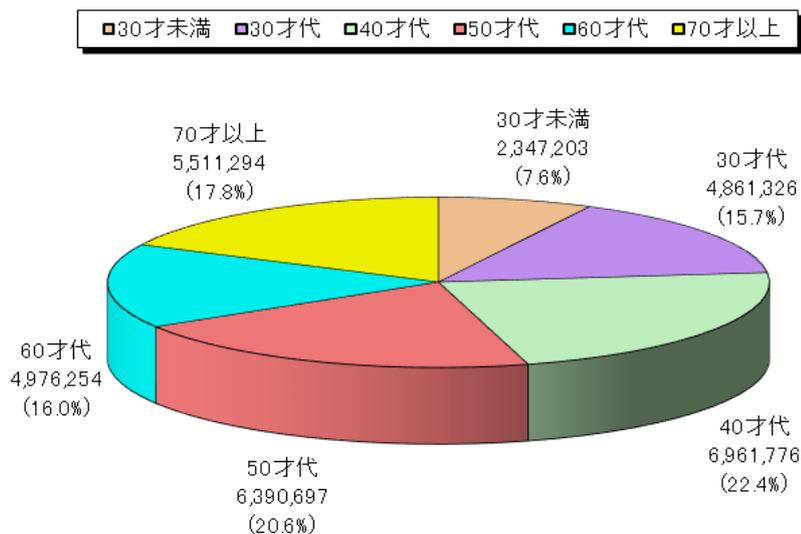
(注2) 口座数については千の位を四捨五入。

(2) 年代別口座数

個人のインターネット取引の年代別口座数は、40才代が696万口座(22.4%)と最も多く、次いで50才代の639万口座(20.6%)であった。(図-3参照)

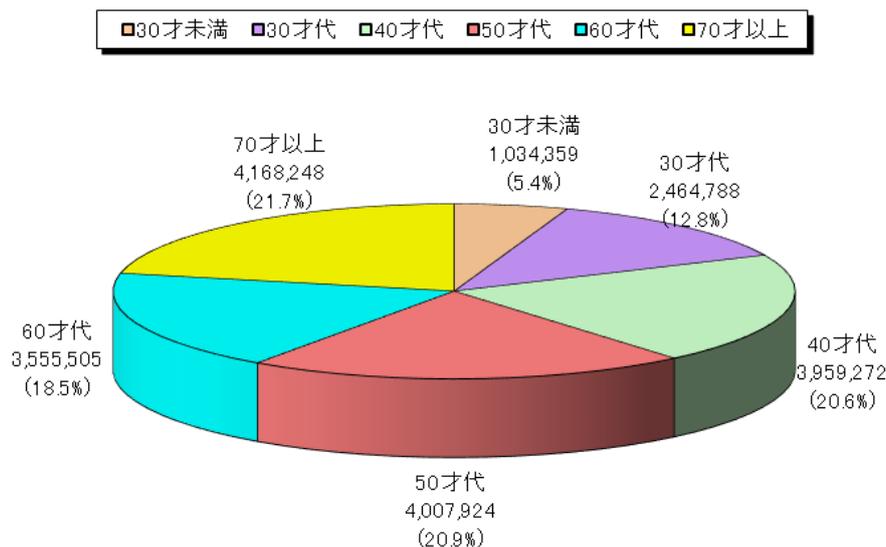
このうち、年代別有残高口座数は、70才以上が417万口座(21.7%)と最も多かった。(図-4参照)

図-3 年代別口座数及び口座数比率



また、前回調査時と同様に有残高口座数の60才代及び70才以上の口座数は全体の40.2%を占めており、インターネット取引が60才以上の層にも普及していることが窺える。一方、30才未満の有残高口座数は5.4%であった。

図-4 年代別有残高口座数及び口座比率

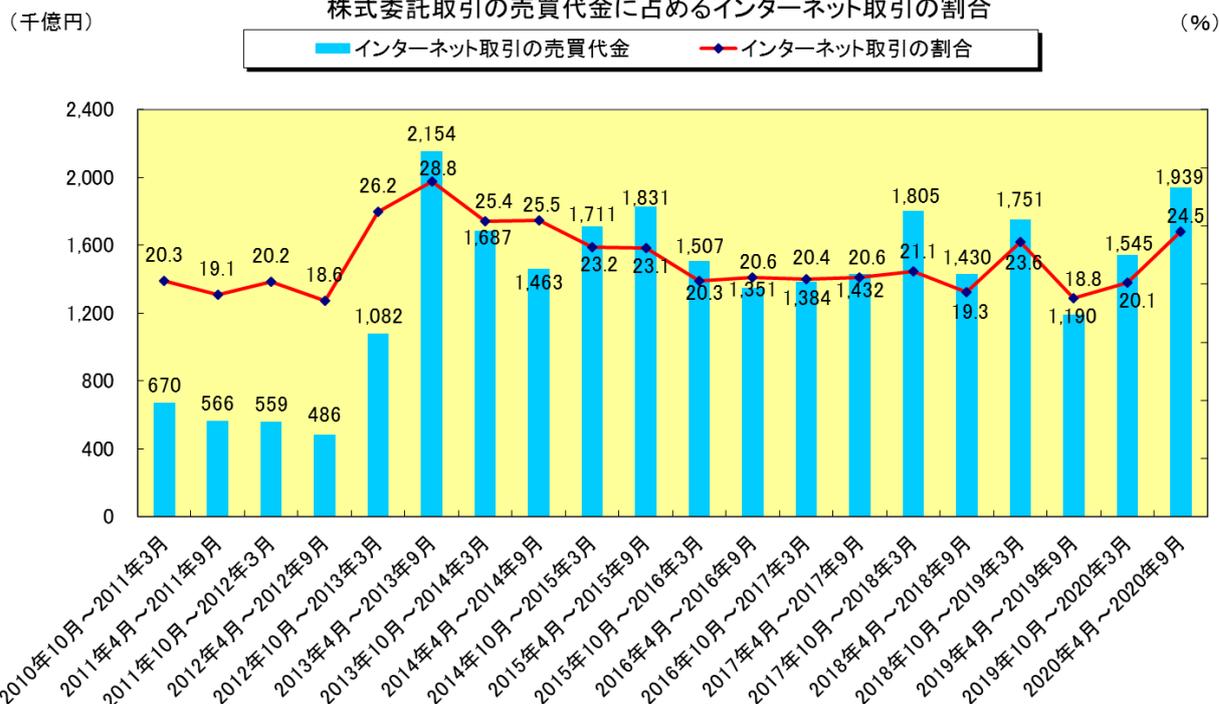


3. インターネット取引の売買代金等の状況

(1) 株式現金取引、信用取引の売買代金

2020年4月から2020年9月までの6か月間におけるインターネットを経由した個人及び法人等の口座における株式現金取引、信用取引（上場投資信託（ETF）及び不動産投資信託（REIT）等を含む。）の売買代金は、193兆9,499億円（前回調査比25.5%増）であった。また、全会員の株式委託取引の売買代金790兆5,513億円に占めるインターネット取引の売買代金の割合は、24.5%であった。（図-5参照）

図-5 インターネット取引(株式取引)の売買代金及び全会員の株式委託取引の売買代金に占めるインターネット取引の割合



(注1) 売買代金については、百億の位を四捨五入。

(注2) 割合については、小数点第2位を四捨五入。

(2) 国内投資信託の募集の取扱高

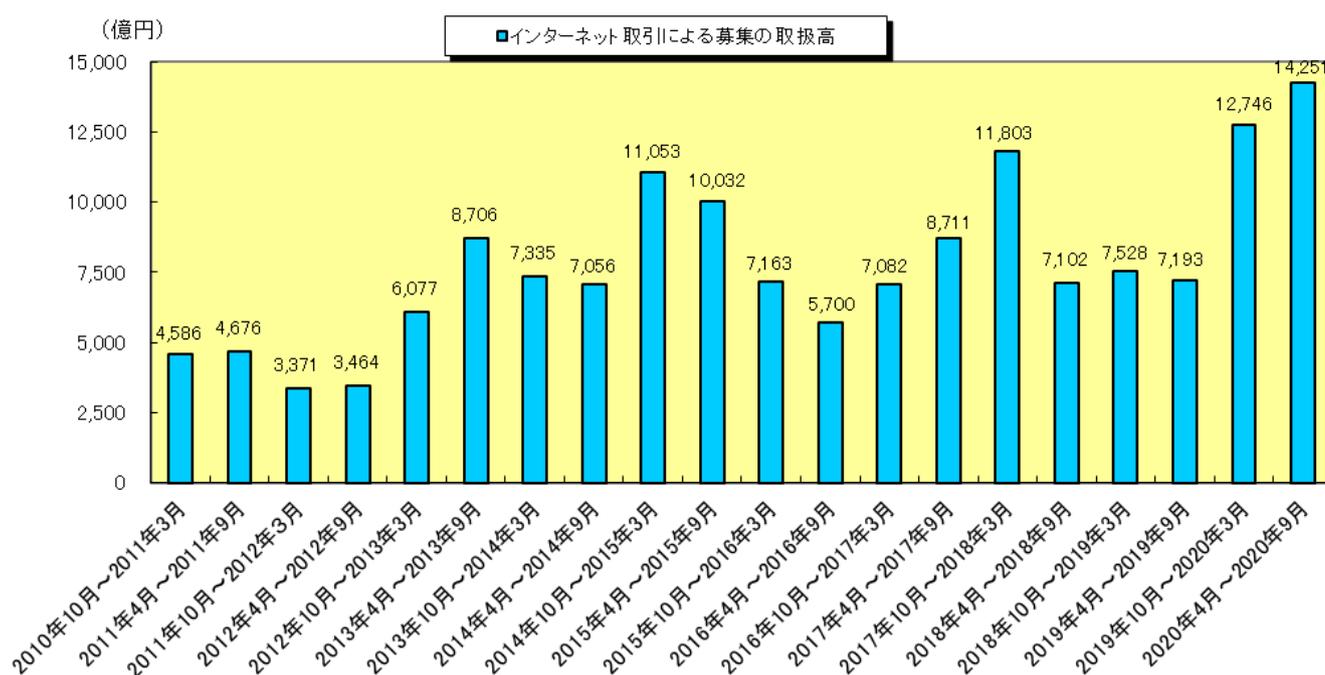
個人及び法人等の口座における国内投資信託の募集の取扱高は、1兆4,251億円(前回調査比11.8%増)であった。

(図-6参照)

(注1) 国内投資信託の募集の取扱高は、個人及び法人等を含む数値。

(注2) インターネット取引の「国内投資信託」については、証券総合口座におけるMRF等の自動買付分を除いている。

図-6 インターネット取引による国内投資信託の募集の取扱高

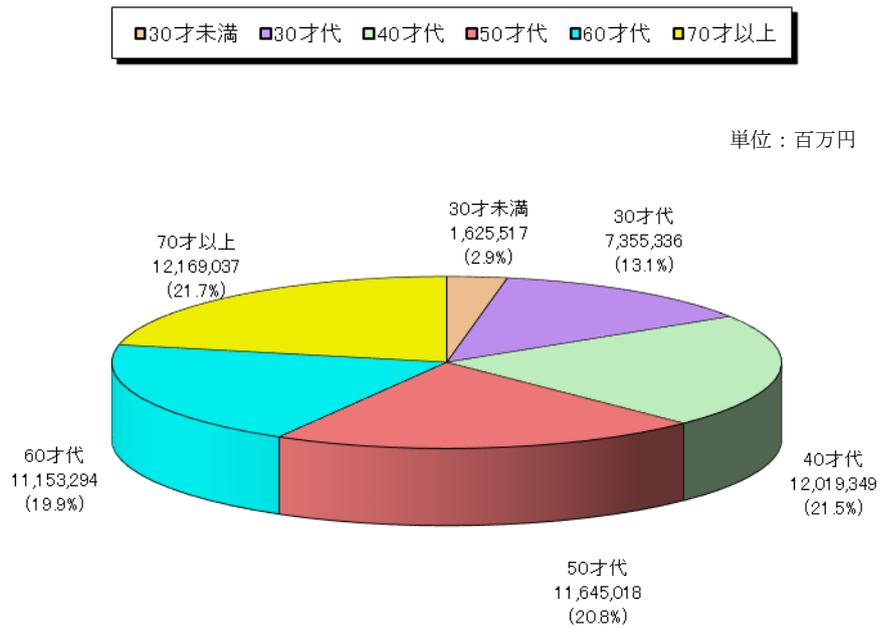


(注) 国内投資信託の募集の取扱高については、千万の位を四捨五入。

【参考】年代別売買代金等の状況 (任意回答)

- ・個人のインターネット取引を經由した株式(現金取引)の売買代金総額は、55兆9,676億円となり、前回調査時の46兆1,733億円から21.2%増であった。年代別内訳については、70才以上が12兆1,690億円(21.7%)と最も多く、次いで40才代の12兆193億円(21.5%)、50才代の11兆6,450億円(20.8%)、60才代の11兆1,533億円(19.9%)となっている。30才未満の売買金額については、1兆6,255億円(2.9%)と、他の年代に比べて低くなっている。(図-7参照)
- ・個人のインターネット取引を經由した株式(信用取引)の年代別売買代金は、40才代が37兆5,125億円(29.5%)、50才代が29兆9,221億円(23.6%)と、両年代で売買代金の53.1%を占めているが、その反面、30才未満の売買金額は、他の年代に比べて低くなっている。(図-8参照)
- ・国内投資信託の募集の年代別取扱高は、40才代が3,091億円(23.8%)と最も多く、次いで50才代が2,964億円(22.9%)、60才代が2,364億円(18.2%)と続いている。(図-9参照)

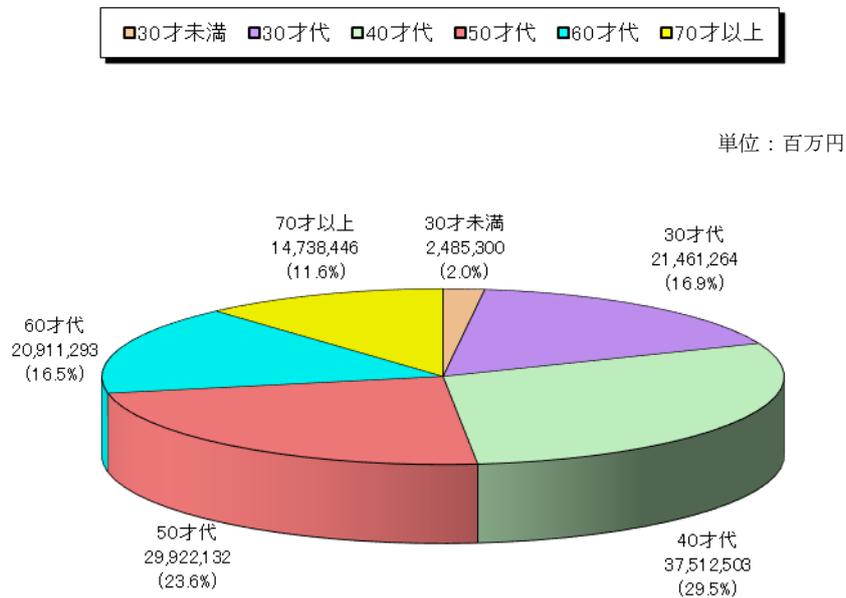
図-7 株式(現金取引)の年代別売買代金及び売買代金比率



単位：百万円

(注) 未回答会社数：10社

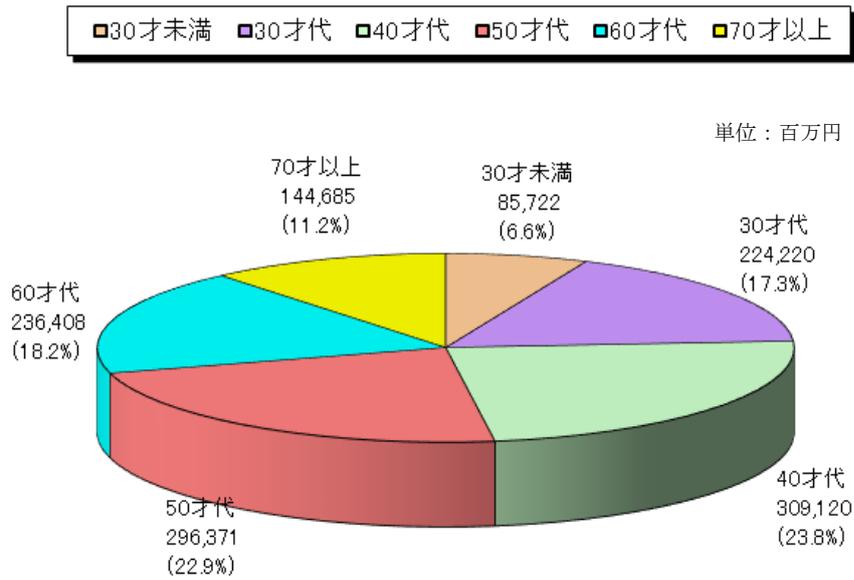
図-8 株式(信用取引)の年代別売買代金及び売買代金比率



単位：百万円

(注) 未回答会社数：5社

図-9 国内投資信託の募集の年代別取扱高及び取扱高比率



(注) 未回答会社数：6社

(注1) 各年代別売買代金及び取扱高の金額の単位は百万円（百万円未満は四捨五入）。

(注2) 各年代別売買代金及び取扱高の割合については、小数点第2位を四捨五入。

4. 預かり資産残高【任意回答】

個人及び法人等をあわせた9月末における国内株式・現金（MMF、MR Fを含む）・上場投信（ETF、不動産投信）その他を合計した預かり資産残高は、128兆4,893億円（88社中65社回答）であった。

以 上